

韓半島南部出土鏡について
The Mirrors Excavated in the Southern Area of Korean Peninsula

上野祥史

はじめに

①韓半島南部出土鏡に対するこれまでの評価

②韓半島南部出土鏡の検討

まとめ

【論文要旨】

近年、韓半島南部では、大成洞古墳群など調査の進展に伴って、3世紀から7世紀にかけての遺構から出土する鏡が増加している。これらの鏡については、鏡の搬入による地域間の交流が指摘されているが、本稿では、近年の鏡研究の成果をもとに、その製作面と流通面を詳細に検討し、鏡の流入からより具体的な交流の実態を描き出すことを求めて検討を進めた。韓半島南部出土鏡について、まず製作面に着目して、出土鏡ごとに系譜や製作年代と製作地を整理し、鏡出土墳の墓群における位置付けや鏡副葬墳の被葬者の階層的な位置づけを検討・確認した。そして、それらを総合して、想定できる流入プロセスを指摘し、それぞれに前提となる背景や条件を検討した。流入プロセスについては、推察の域を出ることはできなかったが、韓半島南部出土鏡の系譜や製作地及び倭における流通の整理を通じて、古墳時代の出土鏡に対する新たな視点や問題を提起することができた。